

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2013年11月



支援作業隊と支援バスツアー隊(谷川浜)



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2013年11月1日発行 通巻247号(毎月1回発行)

ハイキングでの事故が増えている

その多くは不注意が原因です

11月号 目次

・ 目次	2
・ 花博士の花便り	中原 紀代治 3
・ 古い手帳の記憶	高見 信明 4
・ 山行報告・燕岳～常念岳	松戸山の会 5
・ 山行報告・赤木沢	松戸山の会 8
・ ハイキング委員会交流集会案内	ハイキング委員会 11
・ 第30回 房総ロングハイク案内	ハイキング委員会 12
・ 労山カレンダー案内	13
・ 山筋ゴーゴー体操パンフ紹介	14
・ 「ちば労山ゆう」バスツアー報告(1)	中広 正二 15
・ 「ちば労山ゆう」バスツアー報告(2)	青山 輝夫 16
・ 「ちば労山ゆう」バスツアー総括(3)	長池 康雄 17
・ 支援物資紹介	18
・ 11月県連便り	19
・ 11月・12月	20

表紙説明

「ちば労山ゆう」は、10月19日・20日に被災地を訪ねるバスツアーを実施した。被災地を訪ねたことが無い、支援活動の実態を見学したい、被災地の方と話したい、被災地での買い物をしたい等、欲張り企画のバスツアーである。

30名の参加者の多くは、初めて被災地を訪れた方であった。案内人の説明はテレビで見たあの画面を思い出させた。大川小学校の悲劇、防災対策庁舎の勇気、取り壊され流された街跡は、夏草に覆われて津波の爪痕を隠してしまった。

この大惨事を風化してはいけない、被災地に寄りそった支援活動の継続、は「ちば労山ゆう」の大きなテーマです。

谷川浜で漁業支援の皆さんと、バスツアー参加者の心が通い合った記念写真です。(バスツアーの案内人は、ちば山の会の3人が受け持ちました。)

—— 編集者 ——

花博士の花便り

ふわくハイキングサークル 中原 紀代治

10月に入り、何処からとも無く良い香りがして来ました。キンモクセイです。

キンモクセイ (金木犀) モクセイ科 モクセイ属

金木犀は、木肌が犀の肌に似ている事から宛てられた様です。観察すると良く分かります。また香りがトイレの消臭剤に使われた？トイレの臭いがすると言う人もいます。これから咲く白のギンモクセイの変種とされています。柎も同属ですので、ヒイラギモクセイは、ギンモクセイと柎の交雑種とされています。香りはキンモクセイより弱いです。葉が似ているネズミモチ、トウネズミモチもモクセイ科です。

ショウマの花

11日に観察会に行きました。サラシナショウマ、イヌショウマ、オオバショウマを観ることが出来ました。この3種は、キンポウゲ科サラシナショウマ属で初秋に咲き花や葉で見分けられます。サラシナショウマは、葉が3深列で円柱状の白い花が咲く、イヌショウマは、葉が五角形状で棒状の花は2・3個に分かれて咲く、オオバショウマは、イヌショウマに似るが葉が大きく花穂の数が多いので見分けられます。千葉では、初夏にアカショウマ、ユキノシタ科チダケサシ属が咲きます。

これから咲く花が少なく良い花の写真が有りません。ツチアケビの実が凄いのを観ましたので添えつけます。花は7月に咲き、花だけで葉がありません。



キンモクセイ



キンモクセイの木肌



ショウマの花



ツチアケビの実

古い手帳の記録

東葛山の会 高見 信明

古い手帳を整理しました。その中に1997年(平成9年)の7月20日に定年退職を迎え、その退職後の山行手帳を見ましたが、数か月間、ずいぶん元気に動きまわったものだと、つくづく感心してしまいました。

退職した一週間後の7月26日に、立山、剣岳の会山行を皮切りに、8月10日～15日に北海道山行、同じ8月に夜行日帰り富士山、至仏山。日帰り登山等々毎週のように山登りを楽しんでいました。

その他には、マイカーで9月に東北、北陸路を7日間。東北一般道走行5日間。四国にはフェリーを利用して6日間。九州にもツアーで、夜行2泊3日の旅を。青春18きっぷを利用して「東北夏祭り」見学もしました。

マイカー走行記録

その1、東北、北陸の山行 7日間 2804km

- 9月2日 鎌ヶ谷(733km) 青森酸ヶ湯温泉(泊)
- 9月3日 八甲田山 大岳登山 3時間 酸ヶ湯温泉～(117km)
岩木山神社(車中泊)
- 9月4日 岩木山 2時間 (430km) 竜飛岬～秋田の横手(H泊)
- 9月5日 横手市滞在 単身赴任時の工場訪問、夜赴任時の仲間と酒席
- 9月6日 月山、出羽三山神社～新潟駅～金沢(607km)
白山別当出合駐車場(車中泊)
- 9月7日 別当出合駐車場(雨) 予報も大雨のため白山登山をあきらめ、
福井工場訪問(101km) 芦原温泉(泊)
- 9月8日 白山は雨を確認、登山を中止、帰路。
越前海岸、琵琶湖、関ヶ原、大垣ICを経て(605km) 鎌ヶ谷

その2、東北一般道の山行 5日間 1474km

- 9月27日～10月1日 早池峰山、焼石岳、栗駒山、磐梯山

その3、四国 往復フェリーマイカー山行 四国4日間走行 (787km)

- 10月30日～11月4日 東京、有明＝徳島(往復 船中泊)
- 10月31日 自衛隊松島ゲート前(終戦までの父の軍務地)
- 11月1日 剣山 4時間30分
- 11月2日 石鎚山 4時間30分

その他、九州ツアー山行 韓国岳と開闢岳

- 10月25日～28日 往路フェリー 復路飛行機

東北夏まつり 青春18きっぷの旅

- 8月3日～7日 4泊5日 盛岡さんさ踊り、青森ねぶた、秋田竿灯、
山形花笠、仙台七夕

北アルプス 燕岳～常念岳

- ・ 山行日 2013. 7/13 (土) ～7/15 (月)
- ・ 参加者 松戸山の会 渡辺 (敦子)CL 千葉 SL 丸山 石塚 (記)

コースタイム

- ・ 7/13 (土) 中房温泉登山口 7:00～第3ベンチ 8:55/9:05～合戦小屋～燕山荘テンバ 12:40 (テント設営後) 燕岳往復
- ・ 7/14 (日) 燕山荘テンバ 5:00～大天井岳 8:50/9:00～横通岳 11:05～常念乗越テンバ 12:00/13:00～常念岳 14:30/14:40～常念乗越テンバ 16:00
- ・ 7/15 (月) 常念乗越テンバ 5:30～ヒエ平 (一ノ沢) 9:00

7月12日 (金)

20時、松戸千葉銀前を出発、少し緊張気味の自分を乗せ安曇野スイス村へ。車内では丸山さんが幼少期に育った思い出の地、安曇野の話などしてくれたり、千葉さんは、「石塚君、敦ちゃんは俺にとって雲の上の人だよ。」(後にその意味がわかった気がする)と自分の緊張とは裏腹に笑いの絶えないスタートになりました。

13日 (土)

曇り空の中、中房温泉登山口に到着。連休のせいか6時には第3P まですでに満車状態、運良く登山口に近い路肩に停め、身支度を済ませ憧れの燕へ！

入会後初山行、敦子さんが「ゆっくり行きましよう！」と声を掛け歩き始めた。少し歩くと、あれ？前の人足が見えない・・・

顔を上げると4速ギア並みの速さで歩く敦子さんの姿が目映った。テントを背負いコースタイムで歩ける人の山行はどんなペースなん？

不安に思っていると後ろから「敦ちゃん速いよ」千葉さんの救いの声。



その時、本当に雲の上の人だと感じた瞬間だった！

登山道には綺麗な高山植物が迎えてくれ、シャッターを押しているとあっという間に燕山荘テン場に着いた。テン場はすでにカラフルなテントで賑わっていたので、仕方なく残雪の上にテントを張ることに。

夏なのに初雪上テントを味わえるとは思わなかった。設営後、イルカ岩、メガネ



岩にも出会え、憧れの燕山頂に立つ事ができた。テントに戻り早めの夕食。

敦子さんがササット手際よく作ったので、やっばスゲーと感心していたら、「石ちゃん飲むよね?」「両手にジョッキ持てる?」

あれ、先輩からあんパン買ってこい状態? と冗談もいえるくらいなぜか自然とみんなと打ち解けていた。その日は地図読みも教わり雷鳥にも出会え、夜のテン場では丸山さんの子守唄だけが響いていました。(帰りの車内で一部歌詞が違おうと指摘が入っていた)

7月14日(日)

朝から丸山さんが、敦子さんの回収テントに収納されるというハプニングが(笑)

空は厚い雲におおわれていやな天気の中、今日の目的地、大天井岳、常念小屋テン場に向かいまいた。はるか遠方に富士山が見えたり、西には槍が一瞬顔を出してくれたり、やっぱり稜線歩きはこういう時間を味わえるから楽しいです。

コマクサの花畑を進むと、目の前には大天井岳が・・・大天荘に荷物をデポってみんなで山頂へ向かいました。

山頂は生憎ガスの中でしたがみんな笑顔で記念撮影をし、雨風強くなってきたので早めに目的地に向かうことにしました。段々天気も回復してきたので。本当は巻き道を進む予定だった横通岳を千葉さんが、「せっかくだから登ろう。」敦子さんは、会でも登ったことないから「うち等が始めてかも！」



聞いた瞬間テンションあがりました。山頂は三角点とケルンが迎えてくれました。

目の前には目的地の常念岳、気合いを入れて前に進みました。常念テン場に着き小休憩後、天気も落ち着いていたので今日中に山頂に行くことに。ゆっくり景色を堪能し山頂に着いたときは太陽も迎えてくれた。

みんなで記念撮影! いい笑顔してました♪

そして、下山後のテラスでのビールは格別なものだった。その日は早めに寝袋へ潜ったのだが、テントが飛ぶんじゃないかというくらい風が強かったのにもかかわらず、テントの中では寝息が聞こえてきたが、子守唄は聞こえてこなかった。

7月15日（月）

昨夜程ではないが朝から風が強い・・・昨日登っという良かった！！
早々に朝食をとり下山開始！ 下りるにつれて天気も回復し日差しも強くなってきた。

沢沿いを下山していたので暑さもそれほどでもなく、下山後の温泉とそばのせいかみな足取りも軽かった。高山植物達は、「またおいで！」と言っているようでした

初山行でしたが、みなさん気さくな方で3日間あっという間でした。山行中も楽しかったですがテントの中が個人的に一番楽しい時間でした。次は表銀座制覇で！！

お知らせ

会員の皆様には、千葉県連盟活動に参加・ご協力いただき有難うございます。
全国連盟総会・千葉県連盟総会についてお知らせをします。

◆ 全国連盟総会について

- | | |
|---------|--|
| 1、日 時 | 2014年 2月15日（土）13時 開会
2月16日（日）13時 閉会 |
| 2、場 所 | 晴海グランドホテル |
| 3、主な議題 | ① 第30期下期の活動総括と第31期上期の活動方針
② 「個人会員制度」導入に伴う規約の改正
③ 財政について
④ 全国連盟役員を選出 |
| 4、総会代議員 | 千葉県連より、3名選出 |
| 4、傍聴者 | 希望者は、広木まで連絡をおねがいします。 |
| 5、永年功労章 | 入会20年以上の会員を推薦してください。 |

☆ 今総会の重要課題

- ・ 「個人会員制度」入会者が大幅に少ない現状を打破し、1,000名の組織をつくる具体的な活動方針の決定。
- ・ 50年を経過した「労山組織」の強化活動の確認。

◆ 千葉県連盟総会について

- | | |
|--------|--|
| 1、日 時 | 2014年3月2日（日）12時より |
| 2、場 所 | 千葉県スポーツセンター（予定） |
| 3、代議員 | 各会より10名に1人、10名未満の会は1名選出。 |
| 4、総会準備 | ・ 議案書：1月理事会で討議、2月第1週に代議員分を各会に発送。
・ 役員選出：2月理事会で最終決定。 |

- ☆ 今回の総会は
- ・ 中心議題は、2年間の活動総括・会計報告です。
 - ・ 各会の現状を確認し、県連盟は何をすべきかの意志統一。

あこがれの 赤木沢

- ・ 山行日：2013年7月26日(金)～28日(日)
- ・ 参加者：松戸山の会 L加倉井、SL大越、佐藤映、渡辺敦、
- ・ 費用：高速代 9850円 他食材等9800円/1人

7/25 (晴)：松戸 12:00- 松本 IC 経由折立 19:00



太郎平からの薬師岳の勇姿

今日は、テント場の折立まで移動するだけ。有峰有料道路のゲートが19時で閉鎖されるのでそれまでに通過すること。そして、とにかく遠いので途中で必ず給油すること！！ 忘れると大変な事になります。そんな訳で最後のスタンドでガソリンを満タンにして安心して折立を目指しました。

何時まで続くのか酔いそうな位クネクネ山道をいくと、いつの間にか眼下に有峰湖が見えました。陽射しを浴びた薬師岳が有峰湖に写っている様子は何とも云えず素敵でした。

キャンプ場には4~5張りの先客、我々も早速テントを張り、荷物を運び込んだところで夕立がザーザー濡れずにすみラッキー！！

7/26(曇)：テン場6:15- 太郎平小屋 10:15/10:45- 薬師沢小屋 12:40 (素泊)

久々のテント装備に沢装備・・・とにかく太郎平まで担ぎ上げなければならない。或る意味今日の行程が一番心配でした。共同装備を少なくして頂いている、これ以上迷惑をかけないように準備を整え出発した。何度か休憩を取り途中ニッコウキスゲやイワイチョウ、コバイケイソウに癒されながらなんとか太郎平小屋に着きました。

ここでテント等は小屋に預かって頂き、少し身軽になって薬師沢小屋をめざします。

薬師沢に沿ってどんどん下り、橋を過ぎてしばらく行くとキヌガサソウとサンカヨウが群生していた。どちらも花ざかりで白い花びらが一際鮮やかでした。花談議をしながら先に行くと今度は桜の花です、薄ピンクの小さな花は満開でした。この時期に桜の花を見たのは初めてです。対岸の山肌はニッコウキスゲやコバイケイソウが



薬師沢小屋の前でカンパ〜〜イ！

点在し、きれいな景色を堪能しました。ステキー！の連発でした。

予定通り薬師沢小屋に着きチェックイン、まだ陽は高いが小屋前のデッキに出て泡あわでカンパ〜イ！！の運びとなり、就寝まで延々と続いた z z z z

7/27(曇のち雨)：薬師沢小屋 5:45 - 赤木沢出合 7:00 - 大滝 9:00 - 沢終点草原
10:00/10:30 - 北ノ股岳 12:15 - 太郎平小屋 13:35/13:50 - 折立
16:45/17:15 - 新島々道の駅 20:10 (テント泊)



大滝に着いた

デッキ横からハンゴを下り、黒部川奥の廊下に入溪しばらくゴーロが続きワクワクしながら進む。いよいよゴルジュが出て来ました、へつったり 高巻いたりして1時間位で赤木沢出合いについた。本流の滝は川幅もあり水量も豊富に流れ緑の川面がキラキラして素晴らしい！！

ここから赤木沢へ入る。ナメ滝も多く出てきて気持の好い遡行が続いた。

所々で滝をバックに『イエーイ!!』とポーズをきめカメラに納まった。

へつりも高巻きも出来ないところはK倉さんがザイルを持って激流のなかを渡渉してくれました。水量が腰まであり激流の中、このザイル1本がどれ程安心感を与えてくれた事か。泳げない私にとって1番嫌だったのが、深い淵に飛び込んだ所でした。胸まで水に入り2m 位移動した、流れが無いので思い切って飛び込めたが息が詰る思いがしました。

トコ状の滝をクリアした所でAさんの沢靴に異変が、テーピングテープや細引きで養生し事なきを得遡行が続きます。ナメ滝をさらに進むと赤木沢1番の大滝に出ました。30mとも40m言われる迫力満点の垂直の滝です。ここは、絶壁の様な斜度のきつい樹林帯を木の根や枝を頼りに登りつめます。高度感があり沢靴で登るので気が抜けず最後の難所でした。

大滝の上に出ると沢の様子は一変しゴーロの穏やかな沢になり一安心、枝沢3本目を突き上げ花の草原に出た。一息入れ沢靴を登山靴に替えて赤木岳稜線に登りつめた。11時少し過ぎに

稜線に出る事が出来た。太郎平に向け歩きながら、“今日のうちに下山出来る”と言う話になり先を急いだ。様々な花を楽しみながら太郎平小屋に着くと、千葉県連在籍のかがりび山の会の方々と遭遇、一行もこれから下山するそうである。



北の俣岳

預けた荷物を引き取りパッキングを仕直して下山した。
予報通り15時頃から雨になり遠くで雷も鳴っていた。折立に下山して濡れた物を着替え温泉を目指した。

しかし、時間的な事も有り予定は二転三転し温泉は断念。最終的に新島々の道の駅にテントを張り泡あわでキャンパー！！ポテトのニョッキ美味しかったで～す。

7/28 (晴) : 道に駅6:10- 松戸帰着 10:20



かがりび山の会の方たちと

車で帰るだけの朝ですが道の駅にテント、朝寝坊はして居られません。5:30頃テント撤収し荷物を積み込み一路松戸に、早朝から出発できたので道路の渋滞にも会わず、昼前に自宅に戻る事が出来ました。

赤木沢は一度は行ってみたいと思っていた沢です。K倉さんメンバーの皆さんのおかげで忘れかけていた思いを実現することが出来ました。心から感謝申し上げます。

佐藤 (映)

松戸山の会が元気な事は、ちばニュースでも紹介しています。

今月号にも、素晴らしい山行報告をいただきました。来月号用に、2ついただいています。山の会の元気度は、1、山行が活発である事。2、新しい仲間を迎えている事 3、会運営に新人が参加している事。等、で判断できます。毎月発行されている、会報「山茶花」は会員の山行、会行事などが紹介され充実した内容です。

松戸山の会は、松戸周辺の山の会の老舗であると同時に、リーダー的役割を果たして来ました。そこには、会運営の中心として、超ベテランの諸先輩が健在で後輩に良いお手本になっています。

松戸山の会の元気印パワーを、県連活動に注入していただきたい。

———— 編集者 ————

登山時報の購読をお願いします。

登山時報(日本勤労者山岳連盟機関紙)は、毎月15日に発行されています。11月号で通巻465号になる歴史ある機関誌です。(ちばニュースは246号、約倍の発行です)

内容の充実とは反対に、年々購読数が減少し、赤字発行が続いています。赤字発行を解消するには、購読数を飛躍的に増加させる以外にはありません。会員の皆様の1冊を積み上げる以外にはありません。

特に、購読0の会は、ぜひ1冊からおねがいします。

◆ 会でまとめて購読の場合 1冊 300円 を 年間購読 3,000円 です。

申し込み先:全国連盟事務局 (☎ 03-3260-6331 Fax 03-3235-4324)

e-mail jwaf@jwaf.jp

千葉県連・ハイキング委員会交流集会の案内

猛暑の夏が終り、ほっとしています。ハイキング委員会では、来年の30回のロングハイクの計画を前に、委員会を清澄千葉演習林の学生宿舎で行うことに決定しました。1泊して、演習林の紅葉や巨木の観察コースを歩きます。

交流会として、各会の委員と一般の方でも参加歓迎します。

実施日 12月4日(水) 宿泊：5日(木) 観察会

集合場所：安房天津駅：12月4日15時10分(バスまたは車で宿泊所へ)
16時、委員会、(資料館の見学)

12月5日 6時 清澄寺の散策、日本一の日の出、千年杉など。

8時朝食

9時 紅葉ハイク出発 コースは未定

参加費 5,000円(一泊2食弁当) 飲み物は各自持参。

JR利用の方(時刻、各自、確認方)

外房線 千葉駅 ① 13:10発⇒蘇我13:17⇒安房天津 13:08着
間にあわない方 ② 15:04発⇒蘇我15:10⇒安房天津 17:13着
千葉駅 ③快速 15:25発⇒上総一ノ宮16:10着⇒16:12発⇒安房天津17:13着

持ち物 通常のハイキング用具。

申込込み締め切り 11月20日

申込 問い合わせ連絡先 松戸山の会 ハイキング委員長 桑原 年一

最終まとめ ふわくハイキングサークル 中原 紀代治

電話・Fax 0475-34-4757 メール可

安全に楽しく、山を歩くためのテキスト

ハイキング A・B・C (改訂版) のご案内



従来の「日帰りハイキング」から、「小屋泊まり縦走」を想定した内容に変更しました
千葉県連盟の会員の大半は、ハイキング志向です。会員の高齢化も進んでいます。

各会から報告される「事故一報」には、ハイキングでの、スリップ・しりもちなどによる手首・足首の骨折・捻挫が報告されています。高齢になってからのケガは、ダメージが大きく登山人生を左右しかねません。

高齢者ほど、正しいトレーニングが重要です。

そんな時、役に立つA・B・Cです。

会・クラブの講習会テキストにピッタリです。

問い合わせは：千葉県連盟・広木まで (danphiro@zpost.plala.or.jp)

第30回 房総ロングハイキング募集

主催 千葉県勤労者山岳連盟ハイキング委員会

日時 2014年1月25(土)～01月26(日) 一泊二日 (当日参加可)

集合 七里川温泉：沖津屋 25(土) なるべく 15時20分迄集合
26(日) 当日参加 6時00分集合

君津市黄和田畑 921-1 電話 0439-39-3211 フリーダイヤル 0120-397428

コース① 七里川温泉脇～石尊山～麻綿原～一杯水林道分岐～WO(ツクバネ樫目印) 入口～
(東大演習林) 大平歩道入口地点～W15：烏帽子山々頂～W33：硯石分岐～樟林道
入口～本沢林道～坂本駐車場ゴール 歩程約8時間30分(休憩1時間30分含む)

募集人員 60名位

費用 6,000円(一泊二食と弁当、移動) 当日参加1,000円(弁当、移動、)

締切 12月25(水) 各会責任者へ申し込む

直接電車で参加の方 (千葉発 12:39)

電車時刻(往) JR久留里線 木更津発 13:39 上総亀山着 14:42

々 15:36 々 16:40

上記着の時刻に合わせて送迎車が出ます。

自家用車：直接七里川温泉に来て下さい。スペース10台位(出来ればJRをお願いします)

行動予定

01月25(土) 15:30～ 受付開始
17:30～ 挨拶、特別講演、ガイドンス(日程、コース説明)
18:30～ 夕食、交流会後就眠
01月26(日) 5:00 起床、掃除、支度
5:30 朝食(弁当を受け取る)(食事は自由)
6:00 ロングハイク出発(当日参加者は時間厳守)
14:30 坂本駐車場着(JRはバスで送迎)

電車時刻(復) 安房天津駅 14:54 発：15:58 発(千葉方面行き)

安房天津駅 17:03 千葉駅 着 18:46

尚、東葛地区(東葛、松戸、柏、我孫子)はバス利用して、前日軽登山してから
集合地(七里川温泉)に行く事にしました。10,000円(バス代、1泊2食 弁当、)
行先は決定次第報告します。

二日目 合同山行

申し込み問合せ連絡先 ふわくハイキングサークル 実行委員長 中原 紀代治
(TEL/FAX 0475-34-4757)

カレンダーの在庫が少なくなっています。

希望界会は急ぎ申し込みをお願いします。

全国連盟事務局に、直接申し込みをして下さい。 jwaf@jwaf.jp

2014年版労山カレンダー申込書

地方連盟	千葉県連盟	
申し込み部数	発注部数 _____ 部	
名入れ	(名入れの時期は過ぎました)	
希望する名入れ等	(名入れの時期は過ぎました)	
送付先	〒	電話番号
	住所	
	氏名	

- ◆ 問い合わせ先: 千葉県連盟 ホームページ 事務局への問い合わせまで
: 千葉県連盟 会長 広木 国昭
(danphiro@zpost.plala.or.jp)

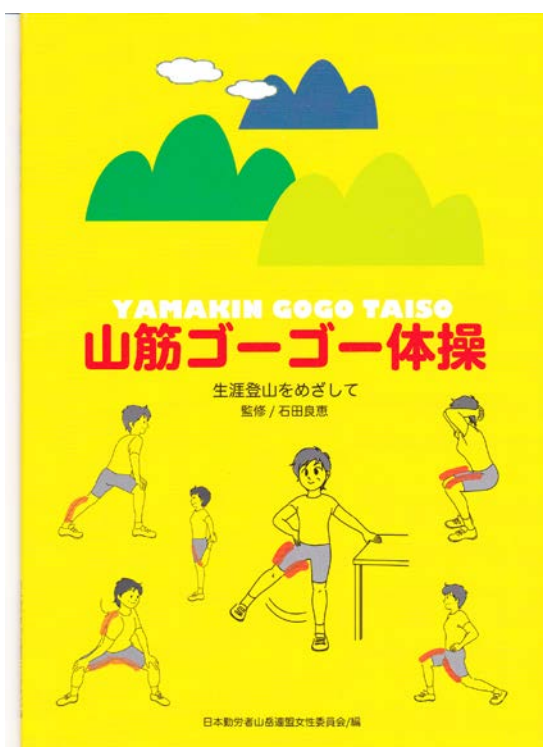
申し込みは、全国連盟事務局に直接して下さい。
代金は、各会でまとめて下さい。千葉県連盟 広木までお願いします。
早急に、会・クラブでまとめて申し込み下さい。
代金は、12月県連理事会に持参ください。
(間に合わない会は、1月県連理事会を最終とします)

女性委員会活動から生まれた

「山筋ゴーゴータイソ」改訂版が好評です

生涯登山をめざして

この山筋ゴーゴータイソを、会やクラブの例会や山行で励行されることをお勧めします。
この山筋ゴーゴータイソをきっかけに「あせらず、ゆっくり、前向きに」息長く登山を楽しみましょう。
(あとがきより)



石田 良恵 監修 (一部 200円)

石田 良恵 先生プロフィール

女子美術大学名誉教授 (保健学博士)・鹿屋体育大学客員教授・
「女性とスポーツ環境」「体脂肪を確実に燃やすエクササイズ90」など著書多数
往年のスプリンターで、現在はマスターズ陸上で活躍中
「東京都連盟会員」「全国連盟女性委員」

千葉県連盟でも好評で各会で利用しています。千葉県連盟用に50部用意しました。
問い合わせ・購入連絡先：千葉県連盟 広木 国昭 (danphiro@zpost.plala.or.jp)
各会で、有効に活用して下さい。

東北支援バスツアーに参加して

柏・山の会らんたん 中広正二

当会から6名が参加しました。初日は千葉駅に6:30AMに集合し、出発は30分程度、遅れましたが、東北道を北上し6時間少々で石巻港ICに到着。テレビで紹介された瓦礫の山こそ見えないものの、建物が流されたことを想像させる箇所を幾度か通り過ぎ、鮎川浜でフェリー乗船、金華山へ参拝。宿泊地の小湊浜にある民宿・後山荘に5時20分頃到着。8時頃から地元の漁師さん渥美さん、馬場さんご夫妻を交えて命からがらの震災体験談を伺い、「生死の分かれ目は紙一重」と実感いたしました。質疑応答後、渥美さんの奥様の日本舞踊を拝見し、9時過ぎに閉会。夜中には地震も体験しました。

翌日は8時半過ぎに宿を出発し、谷川浜に向かい、昨日、予定していたNPO法人「ちば労山ゆう」の支援活動を見学。具体的には貝殻に穴をあけ、紐を通すといった、海鞘の養殖作業です。テントの下で地道に続けられています。支援者たちは作業場の近くにある小屋にシェラフ持参で宿泊されています。労山ゆうの代表者をはじめとする数名の方が汗をながしておられました。作業場を後に、女川町の大川小学校に向かい、全校生徒、先生のほとんどを奪われた大川小学校を観て、大津波の破壊力の大きさに驚愕しました。11時過ぎに南三陸町につき、転倒した建物が川の中に転倒したままになっているのが印象的でした。そのあと、女性職員が防災警報を流し続けた末に亡くなられた防災会館を見学し、設置された祭壇に向かい合掌しました。このあたりから、雨が降り始めました。南三陸商店街で、当地のワカメ、昆布などの海産物を買いました。商店街といっても、小さな仮設店舗が建ち並べられたものです。労山ゆうのボランティア活動ができない私は、当地の商品を購入する、ツアーに参加する、旅行するときは東北方面にするとといったことが自分にできる東北支援だと思います。私と同様な方が多くいらっしゃると思います。是非とも思いを行動にして下さい。最後に他の参加者の感想を伝えます。

「参加して良かった」「支援活動が永く継続されていることに感動した」

「機会があれば、また参加したい。海鞘の養殖といった作業には参加できなくても、今回のツアーなら参加できる人がもっといるかもしれない」

「被災者の方と話して、明るく話されたのが印象的であった。我慢強い東北人の大災害にも負けない根性を観たように思った」

「町や沿道に建ち並ぶ仮設住宅を見ていると、復興はまだまだ先だと思う。」

「瓦礫は減り、造成地が増えたが…。南三陸町の活気が一つの救いのように感じた」



防
災
会
館



大
川
小
学
校

東北支援バスツアーの感想

ふわくハイキングサークル 青山 輝夫

県連主催の10月19(土)～20日(日)「東北支援バスツアー」に参加。まず最初の印象は俗に言う「見ると聞くとは大違い」の一言だ。TVに代表されるマスメディアで見る被災光景はいつ見ても胸がはり裂ける思いだが、一方で何か遠い地方での出来事のように感じる自分がいた。

所が今回現場に行ってみて見た凄まじさは目を疑う。その一つに南三陸町の3階建の防災対策庁舎は鉄骨の建物が14Mの高さの津波で壊滅的な被害を受け、今残っているのは非常階段と骨組みだけ(屋上に避難した職員30名のうち生存者は11名、そして繰り返し住民に非難を呼びかけ続けた若い女性職員が犠牲となったのは落涙の極み)。

こんなに頑丈な建物をも破壊する津波とは一体何であったのか?と自問自答する。

そして余りにも悲劇的な大惨事の現場となった石巻市立大川小学校。全校児童108人の約7割が犠牲となった同廃校の隣に大きな慰霊碑が建てられ多くの慰霊参拝者、供花をする人で混んでいました。恥を晒すようですが同校は歌「北上夜曲」で有名な北上川の河口に位置していたことに初めて気がつきました。優雅な歌の内容とは相容れない悲惨な出来事。世の無常を感じます。

また県連の「労山ゆう」所属のボランティアの方々が地元へ行っての応援活動の現場(牡鹿半島の^{やがわはま}谷川浜)を見学出来たことです。作業はホヤ貝を養殖する為に数十個の牡蠣の貝に穴を開け紐を通す作業ですが、一心不乱に作業している姿に感銘を受けました。ボランティアの皆様本当にありがとうございます。これからも体に気をつけてください。

最後に今回の旅行を企画、実行して頂きました、広木会長をはじめスタッフの長池氏、鶴田氏、村尾氏(全メンバー「ちば山の会」)の皆様、お疲れ様でした。

心からお礼を申し上げます。

所で、投宿した民宿「後山荘」、料理、施設、風呂等本当に良かったです。新築したばかりの宿なので普段の民宿のイメージを超えて旅館並みでした。感激!



金華山で参加者一同



支援隊のメンバーと渥美夫妻

東北支援バスツアー報告

ちば山の会 長池康雄

- ◆ メンバー
 公募 一般4名、各山の会25名
 スタッフ 鶴田秀雄、村尾憲治、長池康雄 3名、 計32名
- ◆ 日程
 2013年10月19（土）～20（日）1泊2日
- ◆ 宿泊
 牡鹿半島給分浜後山 民宿「後山荘」

10/19（土）7:00 千葉駅NTT前―東北・仙台南部・東武・三陸自動車道（石巻港IC）―石巻市内―金華山黄金神社―民宿「後山荘」泊

ひとり集合が遅れ30分の遅発となった。湾岸道から東北道へ高速道は順調に流れたが、いつもの自家用車とバスのピッチの違いで石巻港を出たのは1時間ほど遅れた。

計画では谷川浜の支援作業場を視察してから金華山に向かう予定であったが、そのための時間を費やしてしまっただけでフェリーの14:30発にようやく間に合う状況で視察は翌日へ回すことにした。

予想外に我々以外の参拝客が多く、過去の来島とは雰囲気異なっていた。金華山の栈橋も嵩上げ修復がほぼ終わって上陸も楽々といえる。他の船客と一緒に送迎車で神社に登っていく。

着岸時にきちんと行動時間等を指示しなかったために、参加者がバラバラに行動してしまっただけで、黄金神社では肝心の宮司の案内時にパラパラ状態になってしまい後から三々五々これを追い掛ける事態になった。最初の運行ミスである。

離島時にも一部の人が先に下山してしまったのを把握できず、皆を車に乗せたあと私はひとり残って全員の無事を確認後、日野宮司のトラックで送られる不具合をしてしまった。着岸後、後山荘に向かう。

後山荘は震災後建築した大きな民宿で家屋内部もピカピカで心地よい。

室内照明やトイレなども最新の設備で、消灯後の小さな常夜灯が人の動きを自動感知して点灯するシステムがあり、少し動くと点灯するのでかえって煩い過剰な設備もあるくらいだ。

さて、夕食が終わるころ先発隊の支援作業組が別の民宿より到着し、埼玉労山のメンバーも19人加わって、いよいよ渥美・馬場両氏による語り部の部が始まる。

その前場で渥美夫人の日本舞踊が二舞披露された。

紫の和装に腰帯びを占めた男舞の舞踊で、相当経験を積んだ立ち居振る舞いで手や足の捌きに年季が感じられる。伴奏のテープレコーダーの音声が割れたりして聞きづらい状況のなかでも意に介さずしっかりと舞い終わった。もともと美人形の顔立ちなので美しく見えるのである。

次に、渥美氏が震災時やその後の業界の模様を大きな声で語ってくれる。

時に方言が混じり理解しにくい部分も混じったが気後れも無く堂々とした姿勢であった。震災の損害は相当な規模になるのであろうが、もともとの資産がしっかりしていたのか震災に動じた気後れは感じない。

馬場氏も震災時の様子を語ってくれて、特に流された愛犬が戻ってきた様子などトピックも加え、漁師らしい朴訥な話しぶりが好ましい。

質疑も多く出て語りの会は賑わって終了し、最後にハモニカの伴奏のもと、みんなで唱歌を朗じて散会した。

作業支援組は民宿「あたご荘」戻る。



渥美夫人の艶姿



渥美さんの報告には魂を感じた



馬場さんの愛犬の話に感動

10/20（日）後山荘－谷川浜支援作業場（渥美さん）－女川－大川小学校－南三陸町－三陸自動車道（登米東和 IC）－仙台東部・南部・東北自動車道－帰葉

8：30 後山荘を発つ。

最初に渥美氏作業場で行われている支援作業を視察する。

みな緑チョッキを羽織って正装して作業している。視察者は珍しそうに作業台に近づいていろいろと質問する。ここぞ、ボランティアの成果をご覧にいれなくてはという気負いが満ちている。愉快だ。

ここを辞して開通したばかりという半島背稜を走る観光道路（コバルトライン）に登っていく。今まで通ったことがなかったが、この山上の道はなかなか見晴らしが素晴らしいのだ。半島両側の湾港の風景が良く観測できる。

例の展望台で一時停車し、北側の大展望を楽しんでもらった。

女川は車の中から見てもらいながらマイクで説明する。まだ、倒壊ビルや小型の転覆建物は撤去せずに残されている。造船所があった工場帯はかなり復旧整備が進んでいた。

大川小学校。日曜でもあり見学のバスも何台か停まっていて大層な賑わいだ。始めて見る人々にも大きな衝撃を与えたことであろう。

南三陸町へ向かう途次、少し山側に入った運動施設のトイレを借りる。年配者が多い分、小さなトイレは大賑わいである。

南三陸町に入って、防災対策庁舎に停まる。

3階建ての鉄筋庁舎は赤錆びた鉄骨を晒して見るからに津波の激しさを実感させるとともに、最後まで避難勧告の防災無線放送を続けた女性職員の悲話は長く後世に語り継がれることだろう。この庁舎の存続が議論され続けてきたが、結局、現地の市民のみなさんの思い出したくないという感情が勝って撤去することになった。

この庁舎だけで30名を越える犠牲者を出しているのに、モニュメントを残して悲惨な記憶を引出されるのは耐えられないという住民の気持ちは痛く理解できる。

さて、「さんさん商店街」は「復興グルメF-1大会」と銘打って近隣の飲食店がブースを出してグルメNO.1を競うお祭りが行われていて場内は大変な人出だ。志津川高校生・中学生の吹奏楽が賑やかに行われていた。

事前に予約した海鮮弁当が確実に作れるのか、連絡が途絶えて心配だった「田中前」店もしっかり用意してくれて、その味もすばらしく良くてバスのみなさんの好評を得て良かった良かったと胸をなでおろす。

雨が降り出して東北道も速度制限しているという情報も入り、今回の企画もこれをもって終了とする。多少の渋滞はあったが千葉駅NTT前には予定の30分遅れのみで帰着することができた。

一般の方、山の会でも支援作業未経験者が多く参加されて「NPO法人ちば労山ゆう」の存在に良いインパクトを与えられたと思う。

渥美・馬場ご夫妻の舞踊や語りは、真摯さと臨場感にあふれ印象深いものであった。何度も面会し、お話を伺っている方々なのだが、我々にも強い印象を与えてくれた。



作業前のカキ殻の山



慣れた手付きで作業中



支援の成果、作業後のカキ殻

カキ殻の山から、使用できる殻を選別する。その殻にドリルで穴をあけ、ビニール紐を通しながら殻のツリーをつくる。

ここまでが支援隊の仕事である。完成品を船で、イカダまで運び、海中に沈める。この殻に「海鞘」のたまごが付き成長する。3年位で、収穫できるそうだ。来年6月には取れたての「ホヤ海鞘」を見に行こう。

NPO法人「ゆう」 財政部からのお願い

「ゆう」の財政は、会員の皆さんの会費と支援物資の協力金が主な財源です。最近では、支援金も少なくなり、活動資金が乏しくなっています。

支援活動の参加者は、自前の手弁当と交通費を自己負担して参加しています。今回のバスツアーで、ご協力いただいた支援物資の販売資金も大きな財源です。物資は、常時用意してありますのでご協力をおねがいます。

問い合わせ・連絡先：千葉県連 広木まで Eメール danpniro@zpost.plala.or.jp

NPO法人「ちば労山ゆう」

被災地支援・産直販売のおしらせ

被災地・気仙沼の復興は、着実に進んでいます。しかし、その進み具合は満足出来るものではありません。

港にあるお魚市場には、近海の高産物が並び、加工品の品数も増えました。震災直後から、唐桑半島・前田商店の手作り海産物の販売を「ちば労山ゆう」の事業活動として取り組んで来ました。

各会が販売活動に取り組み、各種行事でも購入いただき、大きな成果をあげています。ガソリン代の高騰、高速道路料金の補助事業打ち切りなど、支援活動の継続には活動資金が必要です。支援活動を支える財政支援をお願いします。

今後も、NPO法人「ちば労山ゆう」の財政活動にご協力をお願いします。

支援物資の紹介



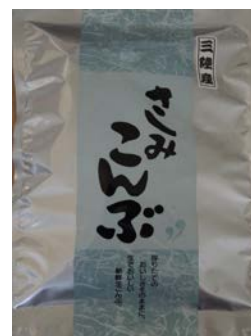
とろろこんぶ



すき昆布



おさしみわかめ



さしみこんぶ



くきわかめ

おさしみわかめ・さしみこんぶは、生商品です簡単に水洗いして水をきって、サラダなどがおすすめです。ポイントは、軽く水切りする事です。力まかせはダメ。

くきわかめは、塩出しをして、油いためが人気です。私は、おかかと好みのドレッシングでビールは最高だ。

とろろこんぶ・すき昆布は、軽くて美味しいです。山食の献立に一品加えて下さい。

会・クラブ・個人での連絡をお待ちしています。10個位から発送します。40個・50個とまとめていただければ、気仙沼・前田商店から直接発送します。

会行事・地域の行事などで、取り組んでいただけると心強い支援になります。

連絡先：千葉県勤労者山岳連盟ホームページ：事務局への問い合わせ

：広木 国昭 danphiro@zpost.plala.or.jp 090-8316-2020

県連たより

県連盟連絡先

- ◎ 千葉県勤労者山岳連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
(県連事務所に常駐者はいません)
- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
県連盟への問い合わせは、上記ホームページ
事務局への問い合わせまで
- ◎ 事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず
送付の事。
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
機関紙委員会・広木 国昭
danphiro@zpost.plala.or.jp
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先
口座番号：ゆうちょ銀行
00240-8-98419
加入者名：NPO法人 ちば労山ゆう
代表者 吉田 哲治
- ◎ その他、県連盟、全国連盟への、ご意見
問い合わせなどは・広木まで

NPO法人「ちば労山ゆう」

- ◎ 「ちば労ゆう」への入会は
千葉県連盟ホームページからも
入会出来ます。
・入会申し込みは
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
・「ちば労山ゆう」への問合せは
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>
・入会情報（10月末）
正会員数 108名
賛助会員数 124名
合計 232名
常時、会員を募集しています。
入会連絡は、上記アドレスまで！
NPO「ゆう」支援活動のお知らせ
11月23日（土）・24日（日）
に実施します。
**12月・1月・2月の支援活動は
お休みします。**
引き続き取扱いしています
三陸産・気仙沼直送の
「おさしみわかめ」
「さしみこんぶ」
「くきわかめ」
「すき昆布」
「とろろこんぶ」
申し込み・問い合わせは、
下記までお願いします。
・支援物資担当 広木まで
danphiro@zpost.plala.or.jp
090-8316-2020

県 連 活 動 予 定 表

11月		行事予定	12月		行事予定
1	金		1	日	
2	土		2	月	女性委員会(17時30分)
3	日		3	火	県連役員会
4	月		4	水	ハイキング委員会(東大演習林)
5	火	県役員会	5	木	
6	水		6	金	
7	木		7	土	
8	金		8	日	
9	土	事故防止交流集会	9	月	
10	日	(さざんかの家)	10	火	
11	月		11	水	
12	火		12	木	
13	水		13	金	
14	木	自然保護委員会	14	土	
15	金		15	日	
16	土		16	月	救助隊定例会
17	日		17	火	
18	月	救助隊定例会	18	水	
19	火		19	木	県連理事会
20	水		20	金	
21	木	県理事会	21	土	
22	金		22	日	
23	土	「ゆう」支援活動日	23	月	
24	日	〃	24	火	教遭委員会
25	月	「ゆう」役員会・教遭委員会	25	水	
26	火		26	木	
27	水		27	金	
28	木	組織委員会	28	土	
29	金		29	日	
30	土		30	月	
			31	火	

発行者 : 千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190 (事務所には常駐者はいません)

発行責任者 : 吉田 哲治

編集責任者 : 広木 国昭

問い合わせ先 : 千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ